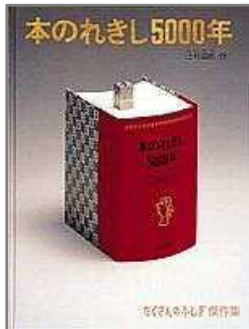


本のれきし 5000年

辻村益朗／作

福音館書店 40p ISBN : 978-4-8340-1139-5



“紙”は、いまから 2000 年前の中国で発明された。しかし、紙の誕生よりもはるか昔から、“本”は作られていたのだ。草やねんど、動物の皮からつくる羊皮紙など、さまざまなものに人は文字や絵を記録してきた。

まずは 5000 年前、草の紙パピルスが生まれたエジプトから本のれきしをたどってみよう。

漁師さんの森づくり

畠山重篤／作 カナヨ・スギヤマ／絵

講談社 174p ISBN : 978-4-06-210411-1



岩手県の室根山で植樹をする人たちがいる。彼らは宮城県の気仙沼でカキを養殖する漁師だ。森と海とはどんな関係にあるのだろう。作者は同じようにカキを養殖するフランスやスペインをめぐり、海洋化学の研究者を訪ね、広葉樹の森にその答えを見つける。「森は海の恋人」をスローガンに、植樹運動は全国へと広がっていく。

レモンをお金にかえる法

ルイズ・アームストロング／ぶん ビル・バツソ／え 佐和隆光／やく

河出書房新社 36p ISBN : 978-4-309-24341-2



レモンをしぼって砂糖と水を加えると、レモネードの出来上がり。ジョニーが買いにきて、「60 円よ」と答えたら、それがレモネードの価格。ジョニーは消費者で、レモネードが製品になる。レモネード屋を例えに、経済の仕組みをわかりやすく教えてくれる本。続巻あり。